灯ろうに追悼の願いを込めて 第95回灯ろう流し

日時：8月4日（土）午後6時～9時30分
場所：勤行川大橋上流

伝統行事を支える金井町のみなさん

今年で95回を迎える、筑西の夏の風物詩「灯ろう流し」。勤行川（五行川）にかかる大橋の近くで毎年行われています。市観光協会と協力して地元金井町が実行委員会（小嶋勝五郎実行委員長）を組織し、町内の行事として行われています。

慰霊と平和への願いを込めて

もともとは大正12年に起こった関東大震災の犠牲者を供養するために始まった行事ですが、終戦後は戦争で亡くなった人の供養、近年では東日本大震災で亡くなった人の供養など、純粋に慰霊の行事として行われているそうです。ペットの慰霊として訪れる人も増えており、長く地域の人々の心の支えとなっています。

金井町から大橋までは歩行者天国となり、夜店が並びます。市外から訪れる人も多く、会場は大勢の人でにぎわいます。

和田 恵子（わだ けいこ）さん（榎生）

故人を偲ぶこの灯ろう流しは、私に日本人の心の美しさを思い起こさせてくれます。

灯ろうを流すところのそばには、供養のために仏像が安置され、旧市街すべての寺院の住職が臨席し読経してくれます。

参加者は購入した灯ろうを持って、川面へと続く特設階段を下り、火をつけてもらい、川へと流します。ボーイスカウトやガールスカウトが、灯ろうへの点火や川面に下りる人々の誘導を手伝ってくれます。

用意される灯ろうは約5，000個。以前は金井町の子どもたちによる手作りでしたが、昨年からは参加者が組み立てて願いごとが書けるようになりました。

人々の手を離れた灯ろうが川面を静かに流れていき、筑西の夜に幻想的で風情ある情景を創り出します。

往年のにぎわいとこれからの灯ろう流し

かつては、花火大会やカラオケ大会なども行われ、大変な盛り上がりを見せていました。昨年は、小貝川花火大会やあんどん祭り、田中稲荷神社の輪くぐりが同日に行われたこともあり、往年のにぎわいが戻ったかのようでした。

長い伝統を持ち、人々に愛されてきた、灯ろう流し。これからもこのすばらしい行事が長く継続されていくことを願ってやみません。